

古川タクの作品・活動アーカイブ

有限会社タクンボックス

概要／課題

1960年代の草月アートセンターを中心とした芸術文化に端を発する個人制作アニメーションのアーカイブは、関係者の高齢化による内容把握の困難さと資料劣化が差し迫る危機的な状況にある。本事業では草月アニメーション・フェスティバルに参加し、国際的なアニメーション作家として活躍を続ける古川タクの作品および関連資料のアーカイブを実施する。フィルム・資料を適切な環境下に移動し、継続的な調査、管理、公開を行う。とくにフィルムデジタル化、資料整理、リスト作成、作家ヒアリング、ウェブサイトでの資料公開、簡易アーカイブマニュアルの頒布を行い、60年代以降の個人制作アニメーション作品の文化的背景、資料価値を伝え、各資料へのアクセス性の向上を図る。

成果

(成果物)

- ・デジタルデータ：フィルム21作品（短編アニメーション4作品、展示用アニメーション1作品、TV用パートアニメーション1作品、CMアニメーション15作品）
- ・デジタルデータ：磁気テープ（VHS、U-matic）72点
- ・資料リスト：「短編アニメーション中間素材、イラストレーション、映像データ」2023年版
- ・作品リスト：「短編アニメーション作品（フィルム・デジタル）」
- ・記録（映像・文章）：オーラルヒストリー3点
- ・資料整理マニュアル：「個人アニメーション作家のためのアーカイブマニュアル」2023年版

(公開方法)

- ウェブサイト「TAKU FURUKAWA ARCHIVE」<https://archiveanimation.wordpress.com/>
- ・インタビュー「『驚き盤』（1975）ができるまで」（インタビュアー：岩井俊雄、橋本典久）
- ・インタビュー・英訳「The Phenakistoscope Era (c. 1975)」
- ・作品リスト：「短編アニメーション作品（フィルム・デジタル）」
- ・資料整理マニュアル「個人アニメーション作家のためのアーカイブマニュアル」2023年版



ヒアリング風景



劣化したセルを他資料から隔離

●上映

- ・「イントゥ・アニメーション8」内、「名誉会長就任記念 古川タク特集」（令和5年8月4日・国立新美術館）にてデジタル化したフィルム作品、およびデジタル作品を上映。
- ・「Online Screening: Taku FURUKAWA」（令和5年11月28日～12月6日・オンライン）にてデジタル化したフィルム作品、およびデジタル作品を上映。

(文化的・社会的・経済的な意義)

- ・フィルム作品のデジタル化、リスト化、ヒアリング（英訳あり）の公開による、個人制作アニメーションの歴史的、文化的価値の普及
- ・視覚玩具「驚き盤」と国内におけるアニメーションとの関連調査による映像史研究への貢献
- ・アニメーションアーカイブの簡易マニュアル頒布による、個人アニメーション作家の資料保護の推進